

講演番号 434

座長 佐々木信光先生

この度はお世話になっております。

誠に申し分けありませんが、下記のように共同研究者の追加修正をお願い申し上げます。

○上田重文¹・大貫正俊¹・山口博隆²・大和陽一¹

サテライト分子を随伴した TYLCV のトマト黄化葉巻病抵抗性品種に対する感染性と病原性

Ueda, S., Onuki, M., Yamaguchi, H., and Yamato, Y.: Infectivity and enhanced pathogenicity of *Tomato yellow leaf curl virus* associated with betasatellite molecules in tomato resistant cultivars.

TYLCV にはイスラエル系統、マイルド系統の他、betasatellite 分子を随伴する TYLCV 等複数の系統が存在する。現在の主な抵抗性品種は TYLCV イスラエル系統に対し強い抵抗性を示すが、マイルド系統や近縁他種には十分な抵抗性を発揮しない。betasatellite 分子を随伴する TYLCV が抵抗性品種における発病への影響を検証するために、両系統の TYLCV に Ageratum yellow vein betasatellite (AYVB) を随伴させた TYLCV-AYVB 株を作成し、抵抗性と感受性品種に対する病原性を接ぎ木接種法により調査した。その結果、TYLCV-AYVB 株接種区は TYLCV 単独接種区に比し黄化葉巻病の発病が助長された。また、抵抗性品種であってもイスラエル系統由来の TYLCV-AYVB 株を接種すると発病した。よって、本 betasatellite 分子は抵抗性品種に感染後の発病を助長させるだけでなく、品種の抵抗性を打破することが明らかになった。

(¹ 九沖農研・² 野菜茶研)

ウイルス・ウイロイド病

トマト

Tomato yellow leaf curl virus

上田重文

sued@affrc.go.jp

118013